令和3年度授業改善プラン

中野区立江古田小学校

Ⅰ　全体計画

学校の教育目標

かんがえる子ども（自分の考えをもち、粘り強く挑戦する子）
やさしい子ども（人を思いやり、豊かなコミュニケーションにより、仲良く活動する子）
たくましい子ども（命を大事にし、健康な心と体をつくる子）

令和3年度学校経営方針

とにかく明るく元気な学校
一人ひとりが大切にされ、どの子も活躍できる学校

本校の捉える「確かな学力」

「探求欲」のある子（対事）　→　やらせてほしいと求める子
「向上心」のある子（対自）　→　もっとできるようになりたいと願う子
「表現力」のある子（対他）　→　すすんで伝え合おうとする子

令和3年度の指導の重点

＜各教科＞
・電子黒板・タブレットの活用による「探求欲」の育成
・主体的な学び手を育てる授業による「向上心」の育成
・外国語・外国語活動・英語活動による「表現力」の育成
・積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成個に応じた指導の徹底

＜特別の教科　道徳＞
・考え議論する道徳
・自立した一人の人間としてよりよく生きる人格に形成

＜特別活動＞
・一人ひとりの活躍場面の創出による「探求欲」の育成
・目標をもって取り組む活動による「向上心」の育成
・異学年や様々な方々との交流活動による「表現力」の育成

＜総合的な学習の時間＞
・言語能力・情報活用能力・問題発見・解決能力の育成
・各関連団体・地域の人材や学習材、ICT 機器の活用による単元計画の作成

＜生活指導＞
・多様性を認め、いじめを根絶する取組
・一人ひとりに手を掛ける指導
・周年イベントによる愛校心の育成
・組織的な指導体制のもとでの指導方針の共通理解と実践
・基本的な生活習慣の確立など健康教育の充実・家庭との連携
・個別指導計画や学校生活支援シートを作成し、児童に合った指導を随時改善、個別指導の充実

＜進路指導＞
・一人ひとりのよさや可能性を伸ばす教育の充実
・発達段階や学びの連続性を踏まえ、「キャリア・パスポート」を活用し一人ひとりの自己実現を促す取組

授業改善の視点

指導内容・指導方法の工夫
・各学年における学習規律の設定と指導の徹底
・国語科・算数科の基礎的・基本的な内容の定着
・思考力・判断力・表現力等の向上
(言語活動・具体物の操作・実験の充実等)
・習熟度別指導
・一部教科担任制

教育課程編成上の工夫
・４５分を大切にした、各教科の授業時数の確保
・系統的な指導計画に基づく指導
・オンライン学習等を活用した新しい学びの推進
・教科横断的な授業の工夫

評価の工夫
・学力向上委員会を中心に各学力調査での診断的評価・授業での形成的評価・総括的評価を実施、次の学習への反映
・パフォーマンス評価、自己評価等評価方法の多様化を推進
・１２月に標準学力検査の国語科と算数科（全学年）を実施し、今の学年の学習内容の定着度を調査し授業に反映

校内研究・研修の工夫
・校内研究を通した授業改善
・外国語・外国語活動における日常の授業の改善と研究授業の充実（コミュニケーション能力の向上）
・OJT 研修の計画的な実施と授業力の向上

中学校との連携
・小学校・中学校で共通した学習の約束の作成
・ＳＤＧ's を活用した中学校区共通の学習面や生活面の目標の作成
・乗り入れ授業を活用した中学校に向けた学習内容や学習態度の指導

家庭・地域との連携
・諸行事を通しての交流、連携の推進
・学校支援ボランティア制度を活用しての教育活動支援の拡充
・読書活動の充実
・オンライン学習の整備
・地域の祭りや行事に参加し、我が町江古田を愛する子どもの育成

学力向上に向けた任期付短時間勤務教員の活用
・算数科における個別指導が必要な児童への指導・算数科の学習における算数少人数指導教員との連携
・放課後学習教室、長期休業中の補充学習教室（ぐんぐんタイム）での基礎・基本の定着のための教材の作成や「東京ベーシック・ドリル」を活用したオンライン学習の推進
（１～３学年：年間 15 日程度　４学年～６年生：週１回　夏季休業中　全学年５日以上（含：国語科等）

2 各教科における授業改善プラン

（1）国語科

国語科の重点

・「思考力、判断力、表現力等」の内容「書くこと」「話すこと・聞くこと」の指導内容について、低・中・高学年ごとに身に付ける力を明確にし、表現しようとする意欲を高める。
・どの学年も発達段階に応じ、音読、説明、文章にまとめるなどの言語活動の充実を図り、漢字の読み書き、言葉のきまりなど、基礎的・基本的な内容を定着させる。
・読む力を向上させるために目的に応じ、叙述に基づいて読んだり、教材文との関連を図った読書活動を行ったりすると共に、「中野の１００さつ」をはじめとした読書を推進する。
・設問を理解する力を身に付ける。

令和3年度「中野区学力にかかわる調査　国語」の結果より

・基礎・活用共に目標値はこえているものの、区平均に届いてない学年が多い。
・内容別に見ると「話（合いの内容）を聞き取る」「漢字を書く」は目標値を超えた学年が多いものの、区平均は多くの学年が下回る。
・領域別では、学年により区平均を超える領域にはばらつきが見られるが、「書くこと」は目標値を下回っている。

【小学校】

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
	分析内容	指導上の課題	改善案
1年	・語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読しようとしている。 ・助詞を文の中で正しく使うことは不十分である。 ・大事なことを落とさず聞くことや、文の中の重要な語や文を選び出すことは、個人差が大きい。	・家庭学習でも音読をし、全ての児童が読むことへの抵抗をなくすことが必要である。 ・助詞の使い方の定着を図る。 ・正しい文例を身に付けることを継続していく。 ・話す力、聞く力、読む力の向上を図る。	・毎日音読を練習させ、文に触れるようにして、文字を読むことに慣れる環境を作る。 ・視写や短文、日記などを書かせる中で繰り返し文について指導し、定着を図る。 ・正しい助詞の使い方を繰り返し指導する。 ・二人組での対話や、学級全体の前でのスピーチの活動を計画的に指導する。 ・読書活動を充実させ、語彙力や想像力を育成する。
2年	・自分が経験したことを説明したり、感想を文章に書いたりすることは不十分である。 ・ルールを説明する文章を書く力が不十分である。 ・読み聞かせは好きだが個人の読書量に差がある。	・日常的に自分の経験や感想を書いて伝える力を育成する。 ・順序を考えて正しく書く力を育成する。 ・読む力の更なる向上を目指す。	・日記や作文を書く活動を家庭学習に取り入れ、書くことへの抵抗をなくす。 ・順序を表す言葉を用いた具体例や使用例を示したモデル文を作成して指導する。 ・読書活動を充実させ、語彙力や想像力を育成する。
3年	・漢字を正しく書くことについては、個人差が大きい。 ・読む力については、話の大体の内容を捉えることは概ね定着しているが、具体的な場面の理解は不十分な児童もいる。 ・書く力、話す・聞く力は、不十分である。	・漢字の書き、その他の言語事項を定着させることが必要である。 ・書く力、表現力を育成する。	・漢字テストを定期的に行って、定着を図る。 ・日常的に辞書を活用する。 ・読書の推進を行い、基礎的な言語の定着を図る。 ・家庭学習も含め文章を書く機会を増やす。 ・順序を考えたり、思いや考えを明確にしたりすることを意識して書く指導を行う。
4年	・読む力、書く力について、定着にばらつきがある。 ・漢字を読むことはできるが書くことについて定着が不充分である。	・漢字の書きを定着させることが必要である。 ・文章を書く力を育成する。	・漢字テストを定期的に行って、定着を図る。家庭学習を利用して繰り返し練習する。 ・国語辞典を教室に常置し、分からない言葉をいつでも自分で調べることができる環境を整える。 ・物語文や説明文は、文章に立ち戻り、どの表現から答えを導いたのかを確認し、内容を丁寧に読み取る学習を行う。

				・一人ひとりが自分の考えをもつことができたことを机間指導で確認し、考えがもてない児童へは個別に指導する。 ・書く過程を丁寧に指導し、書き方の基本の形を身に付けさせる。
5年	・漢字を書くことについて、定着が不十分である。漢字を読むことについては、概ね定着している。 ・読むことについて、説明文に苦手意識をもっている児童が多い。 ・資料を基に話し合う活動において、自分の考えをもつことや伝えることが不十分である。また、相手の意図を考え聞き取る力が不十分である。	・漢字を書く、定着を確かめる機会が少ない。 ・読むことの指導について、児童が読み方を身に付ける指導ができていない。 ・資料を基に話し合う活動を設定する。	⇨	・漢字テストを定期的に行って、定着を図る。辞書を活用する。家庭学習を利用して繰り返し練習する。また、漢字をただ覚えるのではなく意味を理解できるように、漢字の成り立ちや部首、読み方などを丁寧に指導する。 ・説明文や物語文を正確に読み取るための技術が身に付くような指導を行い、児童自身が内容を読み取れるようにする。 ・朝のスピーチや授業でのグループ活動など、話す、聞く時間の内容を充実する。 ・大事なことはことは何のかが分かるような話し方をし、児童が意図を考えながら聞くことができるようにする。
6年	・漢字を書くことについて、定着が不十分である。 ・文章を読み取る力に差がある。 ・資料を基に文章にまとめる力は付いてきているが、自分の考えを順序立てて書く力にばらつきがあり、伝えようとする力が不十分である。	・漢字を書く、定着を確かめる機会が少ない。 ・作文、漢字の読み書き、言語事項の定着を図る。 ・日常的に活字に触れ、記述に即して丁寧に読む習慣を付ける必要がある。 ・自分の考えを表現する文の構成についての理解を図り、互いの考えに触れさせ、そのよさに気付かせる。	⇨	・定期的に漢字の小テストをすると共に振り返る活動を定着させる。 ・日常的にすすんで本を読ませ、内容を正しく読み取る力を身に付けさせる。 ・読み取りの学習では、話合いの場面を設定し、対話の中で読み取りを深めさせるようにする。 ・作文や新聞など、文章を書く機会を増やし、お手本となる文章を参考にしながら目的に応じて自分の考えを文章で表現できるようにしていく。 ・文の構成メモを活用し、考えをまとめて書く習慣を付けるようにする。 ・少人数での意見交換の時間を設定し、自他の意見を交流しやすい活動を設定する。

（２）社会科

社会科の重点

・社会的な思考力を育成するために、複数の資料の中から問題解決に必要な内容を見付け読み取る力、ICT機器を活用して情報を適切に調べまとめる力を身に付けさせる。
・社会に見られる課題を理解し、その解決に向けて社会への関わり方や選択判断する力等を適切に表現する力を養い自分の考えをもてるようにする。
・主体的に問題解決しようとする態度を養う。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
	分析内容	指導上の課題	改善案
3年	・地図の見方や使い方について学習したが、まだ十分に使えるようになっていない。 ・タブレットを活用して授業に取り組んだが、情報を読み取り、活用する力が不十分である。	・地図の使い方など更に理解と習熟が必要である。 ・社会科で学ぶことと実生活を結び付けて考えることが課題である。 ・調べ方や資料の活用、読み取りについての指導が必要である。	・自分たちが住んでいる身近な地域の特色や土地利用の様子などを絵地図にまとめるなど、地図の活用を進める。 ・様々な調べ方を提示し、自分が調べる内容に合わせて調べ方を工夫するようにする。 ・気付いたことや分かったことを発表し情報を共有できるようにする。
4年	・資料を適切に活用したり、資料を正しく読み取ったりする力が十分ではない。 ・調べたことに基づいて考えたり表現したりする力が十分ではない。	・地図や各種の具体的資料を効果的に活用し、資料を読み取り、資料を選ぶ力を養う必要がある。 ・グラフや写真、表の資料を正確に読み取ることができるようにする必要がある。 ・調べたことに基づいて考えたことを整理し、文章や図、絵などで表現できるようにする。	・地図の読み方、グラフの見方等、資料を読み取るための方法を教える時間を確保する。ペアワークやグループワークの少人数で意見交換をする機会を設け、対話的で深い学びを促す。 ・考察の仕方を提示し、まとめたことを整理させたり、文章や図、絵などで表現させたりする。 ・振り返りの時間をとり、学習のまとめや考えたことを振り返る機会を設ける。 ・児童用タブレット端末等のICTを駆使し、映像や画像を見て、学習のイメージが膨らみやすいように活用する。
5年	・複数の資料の中から、適切な資料を正しく読み取る力、適切に活用する力が十分ではない。 ・知識を活用して問題解決学習に取り組む力が不十分である。	・資料を選ぶ明確な視点を育成し、問題解決のための効果的な資料活用の力を養う必要がある。 ・知識を活用して問題を解決することの楽しさを味わわせる必要がある。	・資料を読み取る機会や、資料を読み取る活動を増やし、グループで意見交換する機会をもたせる。 ・資料集などを活用して、多くの資料の中から適切な資料を選ぶ活動を増やす。 ・授業の中で、知識を活用して問題を解決する学習を増やす。 ・タブレットなどICTを活用して、画像や映像を見せながら知識がより定着しやすくなるようにする。
6年	・目的に応じた資料を選択する力、資料を読み取る力が付いている児童は５割程度である。 ・学習のまとめや考察を自分の言葉で表現できる児童は５割程度である。 ・社会に見られる課題を理解し、その解決に向けて自分の考えをもてるようにすることが課題である。	・資料の中から問題解決に必要な内容を見付け、読み取る力、情報を適切に調べまとめる力を付ける必要がある。 ・調べたことに基づいて考えたことを整理し、文章で表現できるようにする。 ・社会の変容や特色を捉えるために比較、関連、統合という方法があることを理解し、知識を身に付けていくようにする。	・教科書や資料集等の様々な資料があることを伝え、ICTを含めどの資料を活用したらよいのかを全体指導の中で丁寧に扱っていく。 ・資料から読み取ったことをノートに記録したり、まとめの文の初めと終わりを提示して自分の言葉で考察したりできるようにする。 ・授業の初めに前時の振り返りをしたり、つながりのある学習内容を想起したりすることで様々な事象を比較、関連、統合して学べるようにする。

(3) 算数科

算数科の重点

・課題解決の過程を重視した授業を展開し、算数的活動の改善・充実を図ることを通して、思考力・判断力・表現力を身に付けさせる。
・自力解決の時間を確保し、まず自分の考えをもってから全体で学び合う学習に取り組むようにする。
・考えを出し合い、検討する時間を大切にし、友達の考えから学ぶことで、既習内容や考え方の活用力を高めていく。
・少人数・習熟度別学習集団による個に応じた指導を充実するとともに、指導と評価の一体化を目指した授業力の向上を図る。
・「東京ベーシック・ドリル」を活用し、繰り返し取り組ませることで、基礎・基本の充実を図る。

令和3年度「中野区学力にかかわる調査　算数」の結果より

・基礎は目標値、区平均正答率を上回っている学年が多いが、活用は同じまたは下回っている。特に６年生は下回っている部分が多少あり正答率度数分布においても上位・中位・下位と山が３つある。
・「主体的に学習に取り組む態度」の達成率は、２年生、５年生、６年生は大幅にポイントが上がっている。

【小学校】

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
	分析内容	指導上の課題	改善案
1年	・基本的な数の概念や構成が理解できるようになった。 ・多くの児童は加法、減法の意味を理解しているが、理解が不十分な児童もいる。 ・文章問題において、まだ、正しく問題場面を捉えられない児童がいる。	・６年間の基本となる小学校スタート段階の基礎的事項の確実な習得を図る。 ・思考力、表現力を育成するためにも、ノート指導の充実を図る。 ・個に応じた支援を続ける必要ある。	・具体物、半具体物等の操作で繰り返し学習させ、計算カードやドリルの学習で計算力の定着を図る。 ・ノート指導において、図や言葉でかき表し、伝え合うことで思考力や表現力を高める。 ・「ぐんぐんタイム」で補習する。 ・ICT 機器や電子黒板を効果的に活用し、視覚的に理解しやすいようにする。
2年	・文章題、思考力、数学的な考え方における理解がやや低い。 ・長さや水のかさにおける単位の換算、時計の何分前何分後、なんばんめなどが正しく捉えられていない。	・基礎的事項を確実に習得する。（時計、長さ、水のかさ、なんばんめ）。 ・個に応じた支援を続ける必要がある。	・計算ドリルや補充プリントなどを活用して反復練習を行い、基礎的な力を養う。 ・家庭学習や「ぐんぐんタイム」で基礎･基本の内容を確実に習得させる。 ・「東京ベーシック・ドリル」を活用することで課題を把握し、指導に生かす。 ・ICT 機器や電子黒板を効果的に活用し、視覚的に理解しやすいようにする。
3年	・主体的に学習に取り組む態度はできている。９割以上が課題に対して真剣に取り組んでいる。 ・オリジナルな考えをもって課題解決する児童が多い。 ・大半の児童は友達の考えをよく聞き、理解しようとしている。 ・時刻や長さなどの単位のと測定の学習が不十分な児童がいる。	・ノート指導をさらに充実させることで、自分の考えをまとめられるようにする。 ・個人差への対応する必要がある。 ・基礎・基本の確実な定着を図る。	・自力解決する時間を確保するとともにノート指導において、考え方を表現する方法を指導する。 ・伝え合う活動を取り入れることで思考力や表現力を高める。 ・ICT機器や電子黒板を効果的に活用し、視覚的に理解しやすいようにする。 ・個別に対応し、自立解決でスモールステップを取り入れる。 ・基礎的な問題をドリル・補充教室・宿題等を通して確実に習得させる。
4年	・主体的に学習に取り組む態度はできている。９割以上が課題に対して真剣に取り組んでいる。 ・自分の考えや友達の考えを説明することができる、説明したい児童が半数以上いる。 ・技能は個人差が大きい。１割程度の児童は理解や習熟に時間がかかる。 ・わり算の筆算や角の大きさの習熟が不十分な児童がいる。	・わかりやすい説明の方法をさらに共有していくことが大切である。 ・基礎・基本の確実な定着を図る。 ・個に応じた指導の充実させることが必要である。 ・わり算の筆算の仕組み、アルゴリズムを理解することが必要である。 ・三角定規の角の大きさ等、考え方の基本になることを知識としてもっていることが必要である。	・問題解決学習の「検討」の時間等から、友達の考えを理解したり新しい考えを作り出したりして友達から学ぶことを大切にした授業を行っていく。 ・家庭学習や放課後の補充教室（ぐんぐんタイム）などで、ドリルや「東京ベーシック・ドリル」を活用し、基礎・基本の内容を確実に習得させる。 ・ICT機器や電子黒板を効果的に活用し視覚的に理解すようにする。 ・算数科の基本的な内容を常に教室に掲示し、いつでも学習や復習に活用できるようする。

5年	・基本的な知識や技能は概ね定着しているが、差がある。 ・図形の性質の理解が苦手な児童がいる。 ・何かをもとにして、その何倍かを求める問題に対して苦手意識をもっている児童が多い。	・「基礎・基本」の確実な定着を図る。 ・タブレット等を活用して個に応じた指導を充実する。 ・数のしくみや図形の性質など、なぜそのようになるのかを児童が考え説明できる授業の展開にする。 ・既習内容を活用して問題解決を行う習慣を身に付けることが必要である。	・基礎的な問題をドリル・補習・宿題等を通して確実に習得させる。 ・ICT機器や電子黒板を効果的に活用し、視覚的に理解しやすいようにする。特に図形の学習では、機器を活用し具体的なイメージをもてるようにする必要がある。 ・「東京ベーシック・ドリル」の活用をする。 ・「ぐんぐんタイム」で補習を行う。 ・いろいろなパターンの文章問題に多く取り組ませ、考える力を高めていく。 ・数直線などを活用して、立式の根拠を説明できる指導を繰り返し行う必要がある。
6年	・問題解決学習への取り組み方が身に付いている児童は半数弱くらいである。区学力調査においても「主体的に取り組む態度」は半数程度である。 ・自力解決において、すすんで取り組める児童は半数程度である。 ・数学的な考え方、技能は差が大きい。 ・「東京ベーシック・ドリル」の平均は、が７割程度で全体の傾向は区学力調査と同じである。 ・分数倍の理解は正答率半数以上、比の思考力の正答率は半数程度である。	・自分自身で問題を理解し、解決する力を付けることが必要である。 ・自分で考える習慣を付けることが大切である。 ・考えたことを説明する機会を増やしていくことが必要である。 ・「基礎・基本」の確実な定着を図る。 ・個に応じた指導を充実させる。 ・自分自身で理解度を把握し、繰り返し練習する習慣を付けることが大切である。	・すぐに答えを教えたりヒントを出したりするのではなく、授業１時間の中で５分間でよいので自分自身で考える時間を確保し、まず自分で考えさせるようにする。 ・課題を解決するだけなく、なぜ、どのように考えたのかを問い掛け、そのことをノートに書いて表現させるようにする。 ・説明の方法を提示したり、説明のよいところや分かりやすいところを教員が復唱したりすることで説明のしかたを知り、自分の説明に活かせるようにする。 ・ICT機器や電子黒板を効果的に活用し、図形や割合の学習について視覚的に理解しやすいようにする。 ・「ぐんぐんタイム」の対象者についても検討し、充実した個に応じた指導を行うようにする。 ・「東京ベーシック・ドリル」を定期的に活用し、５年生の学習の復習をするとともに年度末には６年生の「東京ベーシック・ドリル」も実施することで６年生の学習の習熟を図るようにする。 ・分数倍や比の意味理解を繰り返し学習するとともに、比例の考え方に基づいていることから数直線を使って解決することなど、解決の方法についても理解させるようにする。

習熟度別少人数指導の充実に向けて

・授業のすすめ方、教材研究について教員間で共有していく。そのための時間の確保や OJT 研修など充実を図る。

・任期付短時間勤務教員を適所で活用していくようにする。

（4）理科

理科の重点

・自然の事物・現象についての理解を図り、実験、観察などの基本的な技能を身に付けるようにする。
・観察や実験を通して、問題解決の力を養う。
・問題解決の過程を定着し、科学的な思考力を高める。

【小学校】

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
	分析内容	指導上の課題	改善案
3年	・実験にはすすんで取り組むが、学習課題の設定、観察の仕方やまとめ方の工夫に関しては、個人差がある。	・基礎的な内容の確実な定着を図る。 ・学習課題を児童から引き出す教材の工夫をする。 ・実験や観察の結果を分かりやすくまとめる力を付ける。	・実験のねらいを焦点化し、仮説や予想をもって学習しながら理解につなげていき、結論を自分の言葉でまとめられるようにする。 ・比較の視点をもちやすいような、事象提示を工夫する。 ・観察の視点をあらかじめ示すことで、何を観察するのか明確にして記録ができるようにする。また、ICTを活用して、画像等で記録し、観察しやすいようにする。
4年	・実験には意欲的である。 ・用語や内容については、繰り返し取り組むことで確実に定着してきている。 ・観察記録、実験の結果から考察としてまとめる力に差が見られる。	・基礎的な内容の確実な定着を図る。 ・実験や観察の結果を分かりやすくまとめる力を付ける。	・計画的な板書とノート指導、ワークシートの準備を工夫する。 ・ICT を活用し、より実体験に近いものを提示することで理解を確実にする。 ・実験や観察のねらいを理解させ、仮説や予想をもって学習し、考察や結論を自分でまとめられるようにする。 ・友達のまとめ方を参考にできるよう、交流する時間を設定する。
5年	・実験の予想や計画を立てて、積極的に調べようとする態度が見られる。 ・用具を安全に使い、実験に取り組んでいる。 ・実験結果をグラフ等、既習の学習でまとめようとする児童は少ない。 ・実験の結果から新たな疑問を考える児童は少ない。	・理科学習への興味・関心をより高めることが必要である。 ・基礎的な内容を押さえ、より児童の理解が深まる授業をする。 ・実験や観察の結果を分かりやすくまとめる力を付ける。	・実験後も新たな疑問について調べる学習や検証する学習を行う。 ・これまでの単元との関わりについて考えさせ、関連をもって自然事象や実験結果を振り返るようにする。 ・実験の結果をグラフにまとめたり、そのグラフをグループで話し合ったりする。 ・タブレットなど ICT を活用して、画像や映像などで記録をし、実験や観察結果をより分かりやすくまとめられるようにする。
6年	・実験等の学習には意欲的に取り組んでいる。 ・自然事象や実験の結果に対して疑問を感じ、解決しようとする児童が少ない。	・理科学習への興味・関心を更に高めることが必要である。 ・実験方法を考えたり、実験結果を考察したりして知識の定着を図る。 ・生活経験と結び付けて考える場面が少ない。	・計画的な板書やノート指導を工夫する。そして、実験や観察のねらいを理解させ、仮説や予想を立てて学習し、考察を自分でまとめられるようにする。 ・事象をどのようにしたら確かめられるか、実験方法を自分で考えさせ、それをもとにして解決していくことで自分事として捉えさせていく。 ・これまでの単元や生活経験との関わりについて考えさせるようにする。

（5）生活科

生活科の重点

・体験的な学習を通して、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴のよさに気付き、生活に必要な習慣や技能を身に付けるようにする。
・植物や動物を育てたり関わったりする経験、身近な人々や社会と関わることをを通して、生活を豊かにしようとする意欲を養う。
・学習して気付いたことや楽しかったこと等を言葉などで表現し、考えることができるようにする。

【小学校】

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン		
分析内容		指導上の課題		改善案
1年	・意欲的に観察することで、見付けたことや気付いたことを友達に伝えている。 ・関心をもったことにすすんで取り組んでいる。 ・観察したことを絵や文で表現することが難しい児童がいる。	・興味、関心を広げて、友達と協力したり、力を合わせてやり遂げたりすることの楽しさやよさを知る。 ・学習したことを表現するときの表現方法を身に付ける必要がある。 ・様々な感覚を使った観察方法と、表現方法を身に付ける。	⇨	・場面に応じた学習形態を工夫し、互いの考えを伝え合う機会を多く設ける。 ・学習カード等を工夫して、掲示したり発表したりすることで意欲を高め、自分の気付きだけでなく友達の気付きも共有できるようにする。 ・観察の視点を具体的に提示することで観察の方法と表現方法の充実を図る。 ・iPad で撮影した画像を見ながら観察することで、細部に気付かせるようにする。また、記録の助けとする。
2年	・興味をもって観察したり、観察文を書いたりする活動では個人差が大きい。 ・国語科と合科的に扱った単元があり、様々な観点で観察をすることができる児童が増えてきたが表現の幅が狭い。	・興味、関心を広げて、友達と協力したり、新しいことを発見することの楽しさやよさを知る。 ・学習のまとめを発表する活動を取り入れ、表現の仕方の工夫の幅を広げることが必要である。	⇨	・身近な動植物を育てたり、触れ合ったりする経験を増やすことにより、興味の幅を広げていく。よい気付きをしている児童の発言を広げ、気付いていないことや、表現できていなかったことにも目を向けさせる。 ・３年生の学習の成果物を見せたり、様々な発表方法を紹介したりして、まとめの幅を広げさせる。特に、国語科の作文教材の指導を生かして、町探検やおもちゃ作りのまとめを作成していけるように指導していく。

（6）音楽科

音楽科の重点
・曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解できるようにする。
・表したい音楽表現をするために必要な技術を身に付けるようにする。
・音楽を味わって聴く態度を養う。
・音楽活動を楽しみながら、友達とともに表現や鑑賞の学習活動に取り組もうとする態度を養う。

【小学校】

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
	分析内容	指導上の課題	改善案
1年	・挨拶に時間のかかることがあるが、学習には意欲的な児童が多い。 ・音楽に合わせて体を動かす活動は楽しみながら学習しているが、気持ちが高揚して大声を出したり、動きすぎてしまったりする児童が見られる。 ・リズムにのって手拍子や打楽器を打てない児童が見られる。	・学習規律の確立のための指導の充実を図る。 ・音楽を味わって聴くための指導の充実を図る。 ・拍感の習得のための指導の充実を図る。	・よい姿勢の児童を取り上げて褒めていく。 ・音楽に合わせてよい動きをしている児童を褒めたり、一緒に動かしたりしながら音楽を聴く姿勢を養う。 ・手拍子を入れたり、打楽器や鍵盤楽器でも曲に合わせて演奏したりできるように教材の工夫をすることで拍感を養う。
2年	・学習には意欲的だが、話を聞く、音を聴く態度や姿勢が定着していない。 ・拍や音楽に合わせて手拍子を打つ活動を楽しむことができているが、拍に合わせて手拍子の打てない児童も見られる。 ・器楽楽器には、意欲的に取り組んでいるが、鍵盤楽器の運指に戸惑う児童が見られる。	・学習規律を維持する指導の充実を図る。 ・拍を感じ取る指導の充実を図る。 ・鍵盤楽器の基本奏法の指導の充実を図る。	・話を聞く態度を育てるため、姿勢や聞く態度のよい児童を取り上げて褒めていく。 ・２拍子や３拍子など拍子を手足を使って感じ取る学習を取り入れ、常に音楽の拍の流れを感じ取れるように指導する。 ・鍵盤楽器は２～４人ずつ演奏して運指を確認しながら指導していく。
3年	・授業に意欲的だが、話の途中で発言したり、友達の演奏を聴かずに私語をしてしまう児童もみられる。 ・リコーダーの学習には積極的だが、指の独立が難しく、運指にとまどう児童が見られる。 ・友達とリズムや音を合わせて演奏することが難しい。	・学習規律を確立する指導の充実を図る。 ・リコーダーの基本奏法の指導の充実を図る。 ・拍を感じ取る指導の充実を図る。	・話を聞くときや演奏を聴くときには声掛けを行い、意識付けをしていく。 ・リコーダーの運指指導を繰り返し行い、基本奏法を身に付けられるようにする。 ・リズムボックスを使って拍を感じ取りながら手拍子をする活動や音楽遊びをを取り入れ、拍を感じ取りながら楽しむ活動の充実を図る。
4年	・授業には意欲的で、演奏発表や意見発表などには積極的な姿が見られる。 ・リコーダーの学習は、意欲的に取り組んでいる。 ・鑑賞の学習では、思ったり感じたりしたことを素直に	・発表経験の充実を図る。 ・リコーダー奏法の指導の充実を図る。 ・音楽の要素や構造の理解を深める指導の充実を図る。	・演奏や意見を発表する機会を学習の中で意識的に取り入れ、全ての児童が発表できるようにする。 ・興味のもてる楽曲を選択し、リコーダーに慣れ親しめるようにしていく。 ・音楽を形づくっている要素や構造について知識として定着するよう、繰り返し学習に

	表現することができるが、音楽の要素や構造などとの関わりについてあまり理解できていない。			取り入れる。
5年	・授業態度は落ち着いており、自分たちで学習規律を守ろうとする姿勢がある。 ・器楽合奏には意欲的であるが、鍵盤楽器や木琴、鉄琴の正しい奏法が身に付いていない児童が見られる。 ・鑑賞の学習では、思ったり感じたりしたことを素直に表現することができるが、音楽の要素や構造などとの関わりについてあまり理解できていない。	・学習規律を維持する指導の充実を図る。 ・器楽楽器の基本奏法の指導の充実を図る。 ・音楽の要素や構造の理解を深める指導の充実を図る。	⇒	・高学年としての意識をもって取り組めているところを認め、そのよさを評価し、規律を維持できるようにする。 ・器楽楽器の基本的な奏法が身に付くように、興味のもてる楽曲を選択し、様々な楽器を体験させる。 ・音楽を形づくってい要素や構造について知識として定着するよう、繰り返し学習に取り入れる。
6年	・授業態度は落ち着いており、自分たちで学習規律を守ろうとする姿勢がある。 ・器楽合奏には意欲的であるが、経験のある楽器や自信のある楽器を選択しがちである。 ・鑑賞の学習では、思ったり感じたりしたことを素直に表現することに自信がなく、音楽の要素や構造などとの関わりについてあまり理解できていない。	・学習規律を維持する指導の充実を図る。 ・器楽合奏、様々な楽器経験のの充実を図る。 ・音楽の要素や構造の理解を深める指導の充実を図る。	⇒	・高学年としての意識をもって取り組めているところを認め、そのよさを評価し、規律を維持できるようにする。 ・楽曲によって楽器を変える。また、自信を持って表現活動ができるようにじっくり取り組むための時間配分をするなど、学習計画を工夫する。 ・意見発表の機会を増やし、子どもの発表については良さをその都度評価する。また、音楽を形づくってい要素や構造について知識として定着するよう、繰り返し学習に取り入れる。

(7) 図画工作科

図画工作科の重点
・児童の実態に、より合致した教材・題材を設定することを心掛ける。
・図画と工作をバランスよく取り組ませながら表現に対する興味や関心を引き出す。また、継続的に意欲を喚起し、表現に発展的な広がりをもたせるために、見本を提示したり様々な技法や材料などを紹介したりすることで、表現方法を児童自ら選択する手掛かりとする。
・鑑賞については、鑑賞カードを活用したり、思いを言葉で表現したりして、自分や友達の作品のよさを味わう態度を育てる。また、題材に合わせて国内外の美術作品の写真を掲示したり、作家の生涯を紹介したりするなどして、児童が様々な作品に親しむことができるようにする。

【小学校】

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
	分析内容	指導上の課題	改善案
1年	・全体的に関心・意欲は高く、楽しんで取り組んでいるが、作業手順を理解する力に差がある。 ・指先を使った細かい作業が困難な児童が見られる。 ・作品鑑賞への意欲があり、感想などの発言に積極的である。	・分かりやすい指示や丁寧な指示を出すことが課題である。 ・指先を使った細かい作業を始め、表現における道具の使い方や表し方などの基本的な技能の定着が不十分な児童が見られる。	・導入に絵図を用いる、指示を細分化するなど、指導方法を工夫する。 ・繰り返し指導するとともに、見本を提示したり個別指導を取り入れたりすることで定着を図る。また、道具・材料の使い方や片付け方など学習の決まりをつくり、児童一人ひとりが集団の中で学習しやすいように指導していく。 ・児童が楽しんで取り組める題材を更に検討していく。
2年	・関心・意欲は非常に高いが、一部、指示を落ち着いて聞くなどの学習規律が定着していない児童もいる。 ・児童によって技能の差が見られる。丁寧に描写する力や基本的な技法が定着していない児童がいる。 ・友達の作品に感動し、よいところを認められる児童が多い。 ・自分の作りたいイメージをもって取り組む児童が増えてきた。反面、友達の真似になってしまう児童もいる。	・学習規律の定着が不十分であり、持続させるための手だてが必要である。 ・表現において、技能（色の混ぜ方、筆の使い方など）を十分に身に付ける必要がある。 ・友達の作品に対する関心は高いので、伝える力や自分の制作に生かしていく態度を付けることが必要である。 ・創意工夫ができるような課題を考える。	・学習規律は、分かりやすい言葉や絵図などを用いて丁寧に指導していくとともに、時間を区切るなどして集中を持続させていく。 ・導入時に既習事項の確認を行い、その授業で必要な技能が曖昧なまま活動に取り組ませないようにする。 ・できる限り鑑賞の機会を設けるとともに、色形などの共通事項をもとに具体的な鑑賞のポイントを明確にして活動に取り組ませる。 ・基本的な制作を丁寧に指導することで一人ひとりに自信を付けさせ、前向きに制作に取り組める態度を身に付けさせる。
3年	・関心・意欲は高いが、指示を落ち着いて聞くなどの学習規律の定着が不十分な児童が見られる。 ・基本的な技能は身に付きつつあるが、複数の手順になると自力では難しい児童もいる。 ・指示を聞いて、おおむね把握して自分の思いをもって取り組むことができる。 ・自分の作品だけでなく、友達との作品の関わりを楽しんでいる。	・学習規律の定着、学習への集中力を身に付けることが課題である。 ・丁寧な道具の使い方や片付けの仕方などの細かな指導が必要である。 ・全体指導で指示が通るような指示の出し方を工夫する。 ・作品づくりに対する関心・意欲を更に高め、磨いていく。	・きまりを守って取り組む大切さを指導する。努力している児童の負担にならない範囲で、学習規律に反する児童に声掛けをして注意する。 ・参考作品や手本を提示したり、実践して見せたりして仕上げの方法を具体的に指導する。 ・到達すべきめあてや進度を視覚的に分かりやすく提示し、見通しの意識付けをして取り組ませる。また、個別指導も適宜行う。 ・優れた作品を見せ、どこがいいかを意識させたり、声掛けを行ったりして、集中を持続させるように働き掛ける。

4年	・関心・意欲はおおむね高いが基本的な技能は定着していない児童も見られる。自分で取り組むことの難しい児童もいる。私語が多い。 ・独自の表現を工夫するようになってきた。高度な表現を工夫する児童もおり、その姿に刺激を受ける様子も見られる。 ・作品のよさを見付け楽しめるが、造形的な見方をする鑑賞の能力は身に付いていない。	・自分の活動に集中して楽しめるようにする。 ・児童から出たよい発想を生かし、学級全体の表現力を磨く。 ・自他の作品を大切にする意識をもたせるとともに、色や形に関する意識を深める必要がある。	・関心をもって集中できるような ICT 機器を活用し教材研究をするとともに、活動に集中している児童を積極的に褒め、よりよい態度が他の児童へと広がるようにする。 ・よい作品や発想を積極的に取り上げ、よりよい作品を作りたいと思えるように刺激し合う授業の空気を更に育む。 ・活動の前に色や形などの共通事項を確認するとともに、個性のある色や形の作品を具体的に褒め、指導者の言葉を介して作品を見る視点を意識付けしていく。
5年	・基本的な技能が定着していない。技能を組み合わせるなど複数の手順になると自力で取り組むことが難しい児童も見られる。 ・一部の児童は、活動の見通しをもてておらず、決められた時間内に終わらせることができない。 ・友達のよいところを見付けることができる児童が少ない。作品のよさに気付かない児童が見られる。	・分かりやすく指示を出しながら基本的な技能が定着するようにする。 ・創作活動に積極的に取り組めるようにする。 ・見通しが不十分で、制作における試行錯誤以外の無駄な手間を省く必要がある。 ・審美眼が深まっておらず、鑑賞の視点を明確にもたせることが必要である。また、自尊感情を高め、友達とよい形で作品を見合うことも必要である。	・導入時に ICT 機器を活用しながら基本的な技能の確認を行う。参考作品を見せたり、ショートステップで手順を説明したりするなどして制作のイメージをもたせる。 ・繰り返し取り組ませて技能に慣れさせるとともに、児童同士でコツやアイデアなど学び合うように声掛けを行う。 ・授業時間の度に、到達すべきめあてや進度を提示し、意識付けをする。 ・作品の鑑賞に積極的に取り組ませ、造形の美しさに対する認識を深めさせる。 ・前向きな声掛けを行い、いろいろな視点で見るように意識付けする。
6年	・関心・意欲がおおむね高く造形表現に対する好奇心もあるが、私語が多い。 ・基本的な技能は定着しつつあるが、自力では覚束ず、創意工夫ができるところまでには到達していない児童がいる。 ・自他の作品を楽しむ姿勢が身に付いている。が作品について色や形などをもとに具体的に考えられない児童が見られる。	・学習規律の徹底を行う。 ・豊かな発想力を生かして表現するための技能を身に付けさせる。 ・色や形、表現技法など具体的な作品の見方を身に付けさせる。	・児童との信頼関係を築きながら、声掛けで集中が切り換えられるようにする。 ・児童の相談にのり、道具や素材を提案し、必要に応じて使い方も指導する。 ・活動の前に色や形などの共通事項を ICT 機器を活用しながら確認するとともに、個性のある色や形、表現技法の作品を具体的に褒め、指導者の言葉を介して作品を見る視点を意識付けしていく。

（8）家庭科

家庭科の重点

・家族や家庭、衣食住・消費や環境などについて基礎的理解を図り、それらに係る知識と技能の習得を行う。

・問題解決的な学習課題を設定し、考えたことを表現するなど課題を解決する力を養う。

・家庭生活を大切にし、家族や地域の人々との関わりを考え、生活をよりよくしようと工夫する態度を養う。

【小学校】

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン		
	分析内容	指導上の課題		改善案
5年	・調理実習が行えないため、調理に関する知識は学校で学習し、技能の習得については家庭の協力を仰ぐ。 ・ 授業で学んだことを家庭で実践しようとする児童が多い。 ・裁縫については、アイロンかけ、針を使うことなどの経験が少ない。	・技能の習得について、家庭の協力を得ること。 ・問題解決的な学習活動の定着を図る。 ・活動に対して見通しをもって取り組めるようにする。	⇨	・安全で衛生的に調理ができるように調理実習の基本的な手順をおさえる。 ・実際の生活をベースに家庭での調べ学習などを行い、学習したことを実践するなど、家の人に一緒に関わってもらう機会を増やす。 ・ミシンの準備の仕方やミシン針の扱いなどの安全面について、丁寧に指導する。 ・夏季休業等の長期休業を活用し、学校で立てた調理計画を家庭で実施する計画のもと、調理実習を行い、事後指導において家庭での取組の様子を確認するようにする。 ・ICT 機器を活用することで、実際の場面を想像しやすくし、活動に見通しをもたせる。ミシンの使い方等、安全面について分かりやすく指導する。 ・個別指導を重視し、個の実態を把握し、また、児童同士の教え合い、担任や家庭との協力体制をつくる。 ・見通しをもった体験的な活動を取り入れるようにする。
6年	・ 授業で学んだことを家庭で実践しようとする児童が多い。 ・今年度、調理実習は行えないが、家庭と連携をして実習等を行っている。 ・裁縫ではアイロンかけ、針を使うことなどの経験が少ない。	・計画と実習を分け、学校でできることと家庭でできることを分けて学習計画を立てる必要がある。 ・何を実習するかを考え、学習を計画的に行う必要がある。 ・活動に対して見通しをもって取り組めるようにする ・学習の流れを分かりやすく提示する。	⇨	・実際の生活をベースに家庭での調べ学習などを行い、学習したことを実践するなど、家の人に一緒に関わってもらう機会を増やす。 ・長期休業を活用し、学校で立てた調理計画を家庭で実施する計画のもと、調理実習を行い、事後指導において家庭での取組の様子を確認するようにする。 ・見通しをもった体験的な活動を取り入れるようにする。 ・ICT 機器を活用することで、実際の場面を想像しやすくし、活動に見通しをもたせる。ミシンの使い方等、安全面について分かりやすく指導する。

(9) 体育科

体育科の重点
・運動の特性に応じた各種の運動の行い方、生活における健康・安全について理解し、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。
・運動や健康についての自己課題を見付け、解決に向けて思考判断する力を養う。
・運動に親しむとともに健康の保持増進と体力向上、ゆたかなスポーツライフを営む態度を養う。

【小学校】

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	・自分の体の動きを知り、バランスをとって動かすことができるようになった。 ・筋力は個人差が大きい。 ・いろいろなかけっこ遊びをすることで、走ることを楽しむことができる。	・体力の個人差を少なくしていくことが課題である。 ・全体的なバランスをよくすることが課題である。	・基礎体力を付けるための運動を継続的に取り入れる。 ・一人ひとりが自分のめあてを意識し、決まりを守って、互いに認め合いながら体力づくりに取り組めるような環境を整備する。 ・ケンケン跳びや連続してジャンプする運動や、ジグサグに走る運動などを取り入れる。
2年	・走る遊びを楽しむことができているが、体力のバランスに偏りがある。	・体力の個人差を少なくすることが課題である。 ・男女ともに筋肉系の高めることが課題である。 ・体力の個人差を少なくすることが課題である。	・筋力を高めるために、力の負荷の大きい運動や遊びを継続的に取り入れる。また、投力に身に付けさせるための運動や遊びを授業に取り入れる。 ・一人ひとりが自分のめあてを意識し、決まりを守って関わり合いを深め、互いに認め合いながら体力づくりに取り組めるような環境を整備する。
3年	・筋力、筋パワーが低い。 ・友達のよい動きを取り入れようとする意識が低い。	・運動経験値の差を埋めていくことが必要である。 ・筋力を付けることが必要である。 ・運動の特性に応じた技能を身に付けられていないので、動きの基本や力の使い方の工夫を再度教える必要がある。 ・児童同士の見合いや教え合いの場を設定する必要がある。	・基礎体力を付ける運動を継続的に取り入れる。 ・一人ひとりが自分のめあてを意識し、日常的に継続的に体力づくりに取り組ませていく。 ・握力、俊敏性、投力などの筋力を高めるための負荷の大きい運動をベースボール型ゲームなどで意識的に取り入れていく。 ・児童同士の見合いや教え合いの場を設定し、それぞれの運動の特性に応じた技能を身に付けられるように指導する。
4年	・男女とも体力のバランスは全国平均とほぼ同じ。 ・学習への意欲は高く課題をもって取り組んでいる。 ・意欲、能力共に個人差がある。	・小グループでの教え合い活動を充実させる必要がある。 ・苦手意識をもつ子どもの意欲、能力を上げる必要がある。	・体つくり運動の中で、体力を付ける運動を継続的に取り入れる。 ・タブレットを活用し、映像で自分の動きを振り返ることができるようにする。 ・きまりを守り互いに認め合いながら運動できるようルールを工夫し、チームでの励まし合う声掛けを大切にして指導する。
5年	・学習への意欲は高く、課題をもち取り組んでいる。運動技能の個人は大きい。 ・友達のよい動きをまねしたり、取り入れたりしようとする意識が低い。また、自分の動き顧みて、修正を加えることが苦手である。	・友達のよさを見付け、自分の運動に生かす活動を充実させる。 ・技の向上のために、具体的にどのように動きを変えていけばよいかを考える時間を設ける必要がある。	・相手のよさを見付け称賛し合い、様々な運動に取り組んでみようとする意欲が高まる授業づくりを行う。 ・基礎体力をつけるための補助運動を日常的に取り入れる。 ・タブレットを活用し、映像で自分の動きを振り返ることができるようにする。 ・その日の振り返りをもとに、次時のめあてを立てる活動を取り入れる。
6年	・学習への意欲は高く、課題をもちながら取り組めている。 ・友達のよい動きを見付けようとする意識が低い。	・見合う、教え合う活動が少なく、運動経験の積み重ねが十分でない。 ・基礎体力を付ける必要がある。	・一人ひとりが自分のめあてを意識し、決まりを守って関わり合いを深めるよう、互いに認め合いながら体力づくりに取り組ませる。 ・基礎体力をつけるための運動を日常的・継続的に取り入れる。 ・タブレットを活用し、自分の取組の様子を映像で振り返らせることで、自他のよいところに気付き、伝え合えるようにさせる。

（10）外国語活動・外国語科

外国語活動・外国語科の重点
・言語や文化についての体験的理解を深め積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。
・外国語の音声やリズムなどに慣れ親しみ、言葉の面白さや豊かさに気付かせる。
・絵本や ICT 機器の活用やＡＬＴの支援により、多様な見方・考え方を身に付けさせる。

【小学校】

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン		
	分析内容	指導上の課題		改善案
3年	・英語が好きで使えるようになりたいと回答した児童が９割である。 ・すすんで伝えようとしている児童は８割である。 ・新しい表現に不安を感じている児童もいる。学習の定着度に差が生じている。	・苦手意識をもっていたり、間違えたとき恥ずかしいと感じたりする児童がいる。 ・児童の学習の定着度に差がある。	⇨	・少人数で会話する機会を設ける。 ・歌や絵本を取り入れていく。 ・基礎・基本を繰り返し練習し、自信が付くよう取組を賞賛する。 ・導入の挨拶などで既習の表現に触れる機会を設ける。 ・児童が全体の前で発表する機会を設け、表現を使うことに自信をもたせる。
4年	・英語が好きな児童が８割、使えるようになりたいと思っている児童が９割強いる。 ・英語で伝えることを楽しいと感じていない児童が１割程度いる。	・外国語に苦手意識をもっている児童でも楽しく授業に参加できるようにする必要がある。	⇨	・歌やチャンツを積極的に取り入れ、楽しく学習できるようにする。 ・小集団で会話する機会を多く設ける。 ・繰り返し色々な方法で練習を積み重ねる。
5年	・外国語や英語が好きな児童が７割以上いて、使えるようになりたいと思っている児童は９割以上いる。 ・コミュニケーションをとるときに、アイコンタクト、ジェスチャーを意識している児童は８割程度いる。 ・書く活動では、アルファベットは書けるが単語を書き写すことが困難な様子が見られる。	・英語の内容が分からず何を言っているか分からないことで苦手意識をもたないようにする。 ・単語の読み方に自信をもち、アルファベットを正しく書くようにする。 ・ミニトークなどで会話ができるようなツールを身に付けることが必要である。	⇨	・活動の見通しがもてない児童もいるので、デモンストレーションや板書を工夫し、活動の見通しや表現の意味を児童が十分に理解できるようにしていく。 ・フォニックスについて重点的に取り組み、アルファベットの名前と音について理解させていく。 ・ワークシートなどを活用して毎時間アルファベットを書く活動を繰り返し行う。また、書いたアルファベットが英単語になるようにし、アルファベットと発音により親しみがもてるようにする。 ・デモンストレーションでたくさんミニトークを取り入れ、児童が自由に使えるような雰囲気を作る。
6年	・外国語や英語が好きな児童が８割以上いる。 ・外国語の授業で友達とコミュニケーションを取りたいが言いたい内容を英語で言えない児童が５割程度いる。 ・書く活動では、アルファベット、４線の使い方、単語としてのまとまりを正しく書けない児童が２割程度いる。	・外国語に苦手意識をもっている児童でも楽しく授業に参加できるようにする。 ・ミニトークなどで会話ができるようなツールを身に付けることが必要である。 ・英語の書き方の特徴を理解することが必要である。	⇨	・ICT 機器を活用して毎時間歌やチャンツを取り入れ、１時間の授業のパターンを提示することで安心して授業に参加できる環境をつくる。 ・調べ学習を取り入れることで、外国の文化について新たな発見があることに気付き、世界とつながっている実感をもてるようにする。 ・自信をもって学習するように個別に声掛けしたりノートにコメントを書いたりする。 ・ミニトークで活用する‘Key　word’を提示したり、PICTure DICTionary の活用を促したり、ALT を活用したりする。 ・正しい書き方を身に付けるために、毎時間ノートを書かせ、集めることで児童の様子を把握し繰り返し指導する。 ・アルファベットを声に出しながら書かせることで、スペリングの定着を図る。

ALTの活用の工夫
・英語の発音や英語の学習内容についてのＴＩ（担任）のサポート
・長期休業中の英語研修（教員へのレクチャー）
・外国語活動の学習で活用する資料の作成と作成に当たっての助言
・校内研修における助言・サポート